

店

平成 14 年 5 月 2 日

各 位

会社名 株式会社フルキャスト
代表者名 代表取締役社長 平野 岳史
(登録銘柄・コード 4848)
問合せ先 経営企画部長 久保 裕
電話 03-3780-9500

平成 14 年 9 月期中間 (連結・単独) 業績予想との差異について

平成 14 年 9 月期 (平成 13 年 10 月 1 日 ~ 平成 14 年 9 月 30 日) の業績予想について、平成 13 年 11 月 21 日付当社「平成 13 年 9 月期決算短信 (連結)」および同日付当社「平成 13 年 9 月期個別財務諸表の概要」にて発表いたしました業績予想を下記のとおり修正いたします。

1. 平成 14 年 9 月期 連結業績予想の修正等

(1) 中間期 (平成 13 年 10 月 1 日 ~ 平成 14 年 3 月 31 日)

(単位: 百万円)

	売上高	経常利益	中間純利益
前回予想 (A)	12,400	640	260
今回修正 (B)	12,338	854	272
増減額 (B - A)	62	214	12
増減率	0.5%	33.4%	4.61%

(2) 修正理由

売上高につきましては、株式会社フルキャスト単体が前年同期比 7 億 76 百万円 (同 9.4%) 減と低調に推移しましたが、当社子会社であります株式会社フルキャストファクトリーが当初予想を大幅に上回る売上高の推移を示し、同社売上高 22 億 74 百万円と予想比 4 億 13 百万円 (同 22.2%) 増、前年同期比 7 億 23 百万円 (同 46.6%) 増と単体売上の落込みを補う形となり、123 億 38 百万円 (前回予想比: 62 百万円減少) と小幅な減少にとどまる見込みであります。

経常利益につきましては、売上総利益率がほぼ見込どおり推移しましたが、経営の効率化に努めた結果、販売費および一般管理費が大幅に抑制され、8 億 54 百万円 (前回予想比: 2 億 14 百万円の増加) となり予想を大幅に上回る見込みであります。

当期純利益につきましては、役員退職慰労引当金および貸倒引当金戻入等により特別利益が 44 百万円、投資有価証券評価損 73 百万円および退職給付債務について簡便法から原則法に変更したことに伴う差異の一括計上 1 億 29 百万円を含め特別損失が 2 億 5 百万円と各々発生したことにより、2 億 72 百万円 (前回予想比: 12 百万円の増加) となる見込みであります。

(3) 通期（平成 13 年 10 月 1 日～平成 14 年 9 月 30 日）

（単位：百万円）

	売 上 高	経 常 利 益	当 期 純 利 益
前回予想（A）	27,000	2,000	900

通期業績予想に関しましては、以下の理由により現在見直しを進めており、修正が必要となる場合は平成 14 年 5 月 17 日付にて発表を予定しております平成 14 年 9 月期中間決算短信においてあわせて発表する予定であります。

スポット事業の売上高の回復が前回予想より緩慢に推移していること。

ファクトリー事業の売上高が好調に推移しており前回予想を上回り見込めること。

テクニカル事業の売上高の回復が前回予想より緩慢に推移していること。

(4) ご参考：前期の実績（平成 12 年 10 月 1 日～平成 13 年 9 月 30 日）

（単位：百万円）

	売 上 高	経 常 利 益	当 期 純 利 益
中間期（10/1～3/31）	12,382	1,181	702
通 期（10/1～9/30）	23,925	1,764	941

2. 平成 14 年 9 月期 単独業績予想の修正等

(1) 中間期（平成 13 年 10 月 1 日～平成 14 年 3 月 31 日）

（単位：百万円）

	売 上 高	経 常 利 益	中 間 純 利 益
前回予想（A）	7,400	400	160
今回修正（B）	7,448	672	246
増減額（B - A）	48	272	86
増減率	0.6%	68.0%	53.7%

(2) 修正理由

売上高につきましては、平成 13 年夏より減少が続きましたが、今中間期にようやく下げどまりが見られ、ほぼ計画通りの 74 億 48 百万円（前回予想比 48 百万円増加）となる見込みであります。

経常利益につきましては、前年同期比より大幅に低下するとした売上総利益率が前年同期比を下回るも当初予想より上回ったことおよびネットワーク等のシステムインフラ利用促進の効果により求人費をはじめとした販売費および一般管理費が大幅に減少したことで 6 億 72 百万円（前回予想比：2 億 72 百万円の増加）となる見込みであります。

当期純利益につきましては、役員退職慰労引当金および貸倒引当金戻入等により特別利益が 67 百万円、投資有価証券評価損 73 百万円および退職給付債務について簡便法から原則法に変更したことに伴う差異の一括計上 80 百万円等を含め特別損失が 1 億 56 百万円と各々発生し、2 億 46 百万円（前回予想比：86 百万円の増加）となる見込みであります。

(3) 通期 (平成13年10月1日～平成14年9月30日)

(単位：百万円)

	売上高	経常利益	当期純利益
前回予想 (A)	16,000	1,330	590

通期業績予想に関しましては、業績の回復が前回予想より緩慢に推移していることから現在見直しを進めており、修正が必要となる場合は平成14年5月17日付にて発表を予定しております平成14年9月期中間決算短信とあわせて発表する予定であります。

(4) ご参考：前期の実績 (平成12年10月1日～平成13年9月30日)

(単位：百万円)

	売上高	経常利益	当期純利益
中間期 (10/1～3/31)	8,224	835	366
通期 (10/1～9/30)	15,077	1,239	482

以上